

紹介

◎新製品

セリムン® ペット

免疫グロブリン、ラクトフェリン、ラクトペルオキシダーゼを含む、牛初乳由来の乳清にグルコースと電解質を配合し、ペーストに加工し与えやすくした犬猫用健康補助食品。

発売日：2012年10月

販売元：日本全薬工業(株)

輸入元：メリアル・ジャパン(株)

問合せ先：コンパニオンアニマル部

マーケティンググループ 担当者：坂田義美

☎03-6301-4727 FAX 03-3378-1533

E-mail : yoshimi.sakata@merial.com

行事等

12月4日：獣医師賠償責任保険中央審議会

12月5日：平成24年度中間監査

：第5回理事会

12月10日：学校法人ヤマザキ学園創立45周年記念パーティーに山根会長出席

12月14日：獣医学教育の第三者評価実施に係る関係者打合せ会議

12月18日：第22回日本獣医師会雑誌編集委員会

12月21日：業務運営幹部会議

募集

平成24年度 獣医療提供体制整備推進総合対策事業 技術研修等への参加者の募集

本年度も次のとおり広く事業を実施しておりますので、獣医師の皆様の多数の参加をお待ちしています（参加を希望される方は、日本獣医師会事務局 ☎03-3475-1601, FAX 03-3475-1604, E-mail : kyogikai@nichiju.or.jp までご連絡ください）。

管理獣医師等育成支援事業

1 管理獣医師を育成するための農場経営・飼養管理に関する実習

1月17日(木) 開催時間未定 「代謝プロファイルテストに基づく酪農現場における乳牛の栄養管理指導技術の習得」
木田克弥 JA信州諏訪管内農場・長野県

1月23日(水) 開催時間未定 「代謝プロファイルテストに基づく酪農現場における乳牛の栄養管理指導技術の習得」
木田克弥 NOSAI神奈川管内農場・神奈川県

2月27日(水)～3月1日(金) 3日間各9:00～16:00頃

「食の安全を守る農場管理獣医師」北村直人, 「獣医師による食肉の第三者認証システム」飯田 潔,
「肥育牛の死廃ゼロを目指した牛群管理」大橋邦啓, 「HACCP方式の実際(農場管理手法実習)」中村陽二, 高橋知通,
「乳房炎コントロールにおける次のステップ」三好志朗, 「食肉処理場における衛生管理」植村光一郎,
「食肉処理場における衛生管理」埼玉県食肉衛生検査所職員, 「埼玉県優良生産管理農場認証」埼玉県農林部畜産安全課職員 他(予定)
ホテル・ヘリテージリゾート・埼玉県熊谷市(1日目・3日目)
和光食肉処理センター 他・埼玉県和光市(2日目)
埼玉県熊谷家畜保健衛生所・埼玉県熊谷市(2日目)

2 管理獣医師の実践的な技術・知識を修得するための講習会

1月30日(水) 14:00～18:00 「未定」濱岡隆文, 木田克弥 北海道獣医師会館・北海道札幌市

2月24日(日) 14:00～17:00 「管理獣医師の実践的な技術・知識」北村直人, 麻生 哲
中央家畜衛生保健所・三重県津市

3 管理獣医師の理解醸成のためのシンポジウム

2月11日(月) 9:00～12:00 「食の安全を守る獣医師 ～管理獣医師を知っていますか?～」
北村直人, 大橋邦啓, 坂井利夫, 植村光一郎 大阪国際交流センター・大阪府大阪市

4 高度獣医療講習会

1月13日(日) 13:00～17:00 「未定」藤田道郎 愛知県産業労働センター・愛知県名古屋市

1月20日(日) 13:00～17:00 「未定」小川博之 高知会館・高知県高知市

募 集

獣 医 師 募 集

株式会社 日本チャンキー【丸紅グループ】

■事業内容

国内ブロイラー用種鶏ヒナの生産と販売
国内シェア8割以上

■担当業務

原種鶏場（鶏舎および孵化場）のバイオセキュリティの管理（鶏病・細菌の発生予防・検査・コントロール）を担当します。会社業務については弊社HPをご参照ください。

■会社概要

資本金：2億7,000万円
売上高：39億8,000万円
事業所：本社 岡山市 原種鶏場：岡山、栃木
従業員数：120名 株主：丸紅(株)

■年齢・待遇

24歳～40歳程度 面談の上決定

休日休暇：日曜日、祝日、土曜日(第2・第4)、
設立記念日(6月20日)ほか

応募方法：

随時、会社説明・面接を実施しますので下記連絡先に履歴書・獣医師免許証(写)・職務経歴書・健康診断証明書を送ってください。

履歴書には携帯電話番号、PCおよび携帯アドレスを必ず記入してください。

■ご不明な点は、遠慮なくお問い合わせください

〒700-0984 岡山市北区桑田町1番30号
岡山県農業共済会館4階

(株)日本チャンキー <http://www.chunky.co.jp>

採用担当／総務経理部 大島

E-mail : y-ohshima@mail.chunky.co.jp

☎086-803-3660

日本獣医師会学会学術誌投稿原稿の募集について

日本獣医師会学会においては、学会正会員（地方獣医師会の会員）である構成獣医師をはじめ多くの獣医療関係者からの学会学術誌掲載の研究論文を随時募集しておりますので、奮ってご投稿願います。

学会では、獣医師専門職をはじめ、獣医学系大学の学生、獣医学関係分野の研究者等が学術研究の発表をされる場として、学会学術誌への投稿原稿を広く募集しています。

日本獣医師会が毎年度開催する獣医学術学会年次大会で一般口演された研究発表等も、是非ともご投稿いただき、誌面での発表をお願いします。

投稿を希望される方は、新たに制定された「日本獣医師会学会学術誌投稿規程（本誌第65巻第12号953頁）」及び投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に策定された「日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き（本誌第65巻第12号959頁）」を熟読の上、原稿を作成、投稿されるようお願いします。

募 集

宮崎県職員(獣医師)募集

～宮崎県で働く公務員獣医師を募集します～

● 申込要件

- ・申し込み時点で獣医師免許取得者であること
- ・平成25年4月1日現在で満46歳未満であること
- ・県内どこでも勤務できること

● 募集期間

平成24年12月3日から平成25年3月31日まで
(ただし、募集人員を確保した時点で募集を締め切る場合があります。)

● 選考方法

訪問による個別面接のみを実施
(なお、面接日時及び場所は、応募者と相談の上決定します。)

● 問合せ先

(詳細については、下記の県庁ホームページをご覧ください)

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
宮崎県総務部人事課
☎ 0985-26-7009 (直通)

● 採用予定日

応募者の都合に合わせて、随時採用予定です。

URL : http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/somu/jinji/senko_saiyo/H24bosyu_annai.html

宮崎県では、獣医師の方を対象として、学生向けインターンシップとは別に、職場体験を実施しています。希望する方は、以下の連絡先までお問い合わせください。

宮崎県農政水産部 畜産・口蹄疫復興対策局 畜産課 家畜防疫対策室

☎ 0985-26-7139 (直通) E-mail : kotei-kachikuboeki@pref.miyazaki.lg.jp

紹介

獣医さん走る 家畜防疫の最前線

山本茂貴 (国立医薬品食品衛生研究所)
食品衛生管理部長

獣医さん走るといふおもしろい本が出版された。本書では、この十年間に吉川先生が体験された獣医領域の問題についてまとめられている。2001年から2010年まで人獣共通感染症が疑われるBSE(牛海綿状脳症)、高病原性鳥インフルエンザ、そして食料安定供給に関わる口蹄疫と大きな問題が立て続けに起こった。これらの問題を人獣共通感染症の概説を行った後、順番に取り上げている。

BSEは日本で発生した後、食の安全に関して国民が大いに不安に陥った。そのため、内閣府に食品安全委員会というリスク評価機関が設置され、厚生労働省や農林水産省といったリスク管理機関と分離された。BSEは日本の行政機構を変更させるほどの大事件であった。吉川先生は食品安全委員会プリオン専門調査会の座長として開設当初から難しい舵取りをされた。このことについては松永和紀氏のインタビュー記事としてまとめられ本書に収載されている。BSEのリスク評価は当時まだ科学的知見が十分ではない中で行われたが、その当時得られる情報を全て利用して行ったものであった。リスク評価は純粋に科学的なものであるにもかかわらず、なかなか理解が得られず、リスク管理機関からの全頭検査による安全の説明は国民に誤解を与えたと思われる。今後の課題として全頭検査はやめていく方がいいと吉川先生は書かれている。

高病原性鳥インフルエンザは鶏の病気だが、人に感染するタイプへと変異することが懸念されている。インフルエンザの大流行はたびたび起きているが、鶏と豚の間で変異したウイルスが人に感染できるようになったと考えられる。まだ、パンデミックに変異したウイルスは見つかっていないが、高病原性鳥インフルエンザは人に感染しており、人獣共通感染症として問題となっている。本書ではWHOがたてた高病原性鳥インフルエンザH5N1亜型に対する行動計画の運用について病気の広がりだけではなく重篤性も加味して考えるべきと指摘されている。

口蹄疫では、宮崎県の畜産が壊滅状態になるほどの打撃を受けた。このようになった原因を疫学的に解析され、食料安定供給の問題として口蹄疫をとらえることが重要であるとの見解を述べられている。

本書では吉川先生の科学的知識の幅の広さ深さを十分発揮され、一気に読んでしまった。獣医師の必読書としての一冊であるが、一般の方が読まれても理解しやすく、大変おもしろく書かれていると思われる。是非ご一読いただきたい。

著 者：吉川泰弘 (千葉科学大学副学長・
危機管理学部教授)

発 行：(株)幸書房

判 型：B6判 179頁 ソフトカバー

定 価：1,890円(税別)

発 刊：2012年7月

問合せ：(株)幸書房

☎03-3512-0165

FAX 03-3512-0166